

島のむんがたり

徳之島の自然とハブ

徳之島は天城岳、井之川岳という高峰を持ち、そこからは多くの河川が流れ出しています。すそ野には森や畑が広がり、海には豊かなサンゴ礁が発達し、世界中で徳之島にしかない希少種も多く棲息しています。その島に人類が暮らし始めて3万年余になります。

しかし驚くべきことに、人々は約千年前まで農業に頼ることなく狩猟採集生活を送り続けたようです。このことは、徳之島がそれだけ自然豊かな島であったことの証と言えます。

徳之島は昔からとても多くの人口を抱えている島で、過去にいく度も大飢饉に襲われてきました。食べられるものは何でも食べまし

た。ところがそれでもアマミノクドウサギなどの世界的希少種が絶滅することはありませんでした。たいへん不思議なことだと思いませんか。

実はその裏には、ハブが重要な役割を担ってきた可能性がります。ハブはマムシ亜科で、同じ仲間にはずんぐりした体形のヒメハブがいます。島ではハブのことをマジユンと言いますが、古い文献では反鼻・飯匙倩（はぶ）と書くことが多いようです。朝鮮語のパイ（へび）が語源というのが有力な説なようです。徳之島のハブは南西

諸島に生息するハブの中でも最も気性が荒いことから、島民はその対策に頭を悩ませてきました。

伐採、土地の境界争い、先祖拝みや屋敷神・火の神拝みが悪いとハブがやってくるとも言われました。悪いことをするなという戒めの意味と、常日頃ハブに気を付けなさいということなのでしょう。

ところで、母間のイケマウデガナシ（池間御嶽加那支）という神山と亀津のトノチゴ山と呼ばれる神山があつて、そこには大ハブ伝説が残されています。このハブが山から出てくる時は、近くの木々までも揺れ動いたと伝えられています。まるで竜神様です。人々に恐れ拝まれてきたハブは単なる毒を持つ蛇ではなく、神様のような存在でもありました。

話題は変わりますが、今年には『徳之島町史 自然編』が刊行されます。この本ではカラー写真をふんだんに使って、徳之島の豊かな自然を紹介します。刊行されましたら、ぜひこの本を手に山や海に出かけてみてください。実は私たちが、世界中の人たちがうらやまほどのリゾート地で暮らしていることに気づかされるかもしれません。

（町誌編纂室 米田博久）



【徳之島のハブ】

水神様に拝み不足を疑われたときのハブ当たりが一番強烈なのだと信じられてきました。また立木の

問 郷土資料館
☎0997-82-2908